令和7年度　貸借対照表　（令和8年3月31日現在）

ウェルビーイング・ＳＤＧｓ推進事業実行委員会

（円）

資産の部		負債の部	
流動資産		流動負債	
現金・預金	0	流動負債合計	0
未収入金	1,825,000	固定負債	
流動資産合計	1,825,000	固定負債合計	0
固定資産		負債合計	0
特定資産	29,739,817	正味財産の部	
「ウェルビーイング・SDGs推進ファンド」基金	29,739,817	指定正味財産	31,564,817
固定資産合計	29,739,817	正味財産合計	31,564,817
資産合計	31,564,817	負債及び正味財産の部合計	31,564,817

※未収入金については4月15日収入済。

正味財産増減計算書
ウェルビーイング・ＳＤＧｓ推進事業実行委員会
令和７年４月１日から令和８年３月３１日まで

（単位：円）

科目	当年度
Ⅰ　一般正味財産増減の部	
１．経常増減の部	
(1)経常収益	
その他収益	9,002,576
受取利息	39,701
指定正味財産から振替額	8,962,875
経常収益計	9,002,576
(2)経常費用	
事業費	8,294,000
支払補助金（※）	8,239,000
委託費	55,000
管理費	708,576
消耗品費	1,526
諸謝金	695,000
支払手数料	11,850
租税公課	200
経常費用合計	9,002,576
評価損益等調整前当期経常増減額	0
基本財産評価損益等	0
特定資産評価損益等	0
投資有価証券評価損益等	0
評価損益等計	0
当期経常増減額	0
２．経常外増減の部	
(1)経常外収益	
経常外収益計	0
(2)経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	0
一般正味財産期首残高	0
一般正味財産期末残高	0
Ⅱ　指定正味財産増減の部	
受取補助金等	0
受取寄附金	120,000
一般正味財産への振替額	△ 8,962,875
当期指定正味財産増減額	△ 8,842,875
指定正味財産期首残高	40,407,692
指定正味財産期末残高	31,564,817
Ⅲ　正味財産期末残高	31,564,817

（※）支払補助金	交付額	16,322,000
	返還額	△ 8,083,000
	確定額	8,239,000

ウェルビーイング・ＳＤＧｓ推進ファンド
令和７年度　事業実施状況について

Ⅰ　ウェルビーイング・ＳＤＧｓ推進事業実行委員会について

１　総会

開催概要	議事等
第１回 令和７年５月１９日（月）	・ウェルビーイング・ＳＤＧｓ推進事業実行委員会 令和６年度決算報告について ・「ウェルビーイング・ＳＤＧｓ推進ファンド」 基金造成事業補助金事業実績報告書について ・「ウェルビーイング・ＳＤＧｓ推進ファンド」 基金事業実施状況報告書について ・ウェルビーイング・ＳＤＧｓ推進事業実行委員会 役員・委員等の選任について ・ウェルビーイング・ＳＤＧｓ推進事業実行委員会 令和７年度予算について ・令和７年度ウェルビーイング・ＳＤＧｓ推進ファンド 実施要領について
第２回 令和７年７月１４日（月）	・ウェルビーイング・ＳＤＧｓ推進事業助成金交付申請 第一次審査（書類審査）
第３回 令和７年８月２２日（金）	・ウェルビーイング・ＳＤＧｓ推進事業助成金交付申請 第二次審査（プレゼンテーション）

２　成果報告会

開催概要	議事等
令和８年３月１８日（水）	・令和７年度「ウェルビーイング・ＳＤＧｓ推進ファンド」 事業成果報告

Ⅱ　「ウェルビーイング・ＳＤＧｓ推進ファンド」基金状況について

（令和 8 年 3 月 31 日現在）
単位：円

種別	期首残高	期中増減額		期末残高
		増	減	
現預金、未収入金	40,407,692	159,701	9,002,576	31,564,817
計	40,407,692	159,701	9,002,576	31,564,817

〈期中増減額内訳〉

増加		減少	
寄附金収入	120,000 円	事業費支出	8,294,000 円
受取利息	39,701 円	管理費支出	708,576 円
	159,701 円		9,002,576 円

Ⅲ　「ウェルビーイング・ＳＤＧｓ推進ファンド」事業について

１　応募状況

令和７年６月１１日から６月３０日までの期間で提案を募集した。

（１）件数

８事業

（２）分野

環境、地域活性化、女性福祉、高齢者福祉、親育ち、子どもの居場所、
子どもの体力向上、空間デザイン

２　第一次審査（書類審査）

令和７年７月１４日に第一次審査(書類審査)を実施した。

（１）審査基準

「ウェルビーイング・ＳＤＧｓ推進ファンド実施要領」の「６．申請できる企業・団体等」と、「７．対象となる事業」に記載している申請条件を満たしているか。

＜申請条件＞（「ウェルビーイング・ＳＤＧｓ推進ファンド実施要領」より）

６．申請できる企業・団体等　※（１）から（４）のいずれかに該当し、（５）の条件件を満たす

（１）日本国内にて次の法人格を取得している団体
一般財団法人、一般社団法人、公益財団法人、公益社団法人、社会福祉法人、特定非営利法人

（２）中小企業：中小企業基本法に基づく中小企業者
ただし、発行済株式の総数又は出資金額の２分の１以上が同一の大企業の所有に属している会社、大企業の役員を兼ねている者が役員総数の２分の１を占めている会社は含まない。

（３）スタートアップ企業：創業５年以内で国内に拠点を持つ上場していない企業に限る

（４）大学、研究機関：大学、高等専門学校、国立・公設試験研究機関、研究開発を行っている独立行政法人及び公益法人

（５）応募時に、過去３年分の財務諸表を提出できる企業・団体等（活動実績が３年に満たない場合は、最低１年以上の財務諸表を提出できる企業・団体等に限る）

７．対象となる事業　※（１）から（５）の全てを満たす

（１）区の課題に的確に応える提案であり、区を実証実験のフィールドとする事業

（２）公益性のある事業であり、一定の課題の解決や社会的要請に応えることができ、具体的な成果が見込まれる事業

（３）予算の見積もりが適正であり、提案の翌年度以降、助成がなくても提案者によって実施することが可能な事業

（４）先駆性、新しい視点、アイデアなどが含まれており、提案者の専門性や強みを生かした事業

（５）国や地方公共団体から補助金等の交付を受けていない事業

（２）審査結果

①第一次審査通過　　６事業
②第一次審査不選定　　２事業

３　第二次審査（プレゼンテーション）

令和７年８月２２日に第二次審査(プレゼンテーション)を実施した。

※１事業者３０分：説明（１０分）→質疑（１５分）→採点（５分）

（１）審査方法

審査員が各評定項目について採点を行い、全審査員の総合評価に基づき、選定した。

①評価点の考え方について

審査員の採点を評定項目ごとに平均し、提案事業ごとに合計点を算出し、評価点とする。

②最低基準について

評価点１００点満点中６０点を最低基準点とし、最低基準点を満たさない場合は原則選定しない。

＜評定項目＞

評定項目	内容
事業目的（必要性） （２０点）	・事業の目的が明確で、ファンドの目的に合致しているか。 ・地域ニーズや地域課題、社会課題を正確に理解し、課題に対する具体的な解決策が示されているか。 ・ＳＤＧｓに資する事業であるか。
内容（有効性） （３０点）	・事業の内容が具体的で、目的と整合したものになっているか。 ・事業計画・スケジュールが具体的で、実現可能なものになっているか。
実施体制 （１５点）	・実施体制（財務状況、人材、技術等）や責任体制が明確で、計画的な事業実施が期待できるか。
成果 （１５点）	・成果（時期、数値、指標、状態など）が具体的で計測可能なものになっているか。また、適切なアウトカム指標が設定されているか。 ・区全体への展開、効果の波及が期待できるか。
コスト （１０点）	・収支のバランスがとれ、費用の使途は事業目的に対し妥当か。 ・積算根拠が具体的かつ妥当に記載されているか。 ・資金計画が具体的であり、資金確保が考えられているか。
将来性 （１０点）	・今後の事業の発展性が期待できるか。 ・助成終了後も事業の継続が期待できるか。 ・提案事業者の強みや専門性、独自性、先駆性が発揮できる内容であり、またそれが具体的に示されているか。

（２）審査結果

①第二次審査通過・採択　　６事業

②第二次審査不採択　　なし

４　各事業成果報告

令和８年３月１８日に採択６事業の成果報告会を開催した。事業実施状況は以下のとおりである。

（１）助成金額合計

　　￥８，２３９，０００－

（２）各事業実施状況

事業者名	事業概要＜①目的　②内容　③効果　④継続性＞	
	助成金額 （総事業費） ①計画 ②実績	主なＳＤＧｓのゴール
株式会社 タンソーマン GX	**申請事業名：中小企業向けＡＩ電気相談所設立プロジェクト** ①・電力コスト高騰と脱炭素要請に直面する区内事業所の温室効果ガス排出量の把握を支援する。 ・脱炭素施策の意思決定期間を短縮し、中小企業の競争力と区のネットゼロ目標を同時に加速させる「品川モデル」を確立し、区内全域への水平展開を図る。 ②品川産業支援交流施設 SHIP および中小企業センターに iPad 端末を常設し、AI 診断ツール「デンキチェック」を活用した「AI 電気相談所」を設置。利用者が電気やガスの明細書を端末からアップロードすることで、AI が 60 秒以内に CO_2 排出量と電力コスト推移を自動可視化（使用電力量と料金推移、CO_2排出量と削減可能量、最適な再エネ・省エネ手段、該当する補助金制度）を行うほか、セミナーや提携事業者による導入支援まで、具体策の実行を一貫して提供。 ③区民・地域/区全体 ・脱炭素とコスト削減の両立モデルの提示 企業・団体 ・「AI 電気相談所」実績データに基づく分析、課題抽出 【参考】 ・アカウント登録数６件（うち再エネ切替１件） ④中小企業が脱炭素に踏み切れない要因分析および成功事例をもとに、事業継続・拡大に取り組む。 ・成功事例の横展開　　・AI 診断ツール「デンキチェック」の普及 ・多様な手法の提案	
	①¥2,000,000 (¥2,500,000) ②¥2,000,000 (¥2,734,479)	
ノバルス 株式会社	**申請事業名：高齢者ヒヤリハットサポート事業** ①独居高齢者の生活異常を早期に検知し、自宅でも安心して暮らし続けられるよう支援する。 ②事業者の既存製品「みまもり電池」（センサー・通信機能を内蔵した電池型 IoT デバイスと、高齢者が日常的に使う機器を用いて高齢者の安否を確認するサービス）において開発中のヒヤリハットアラートについて、検証を行い、独居高	

	齢者が自宅でも安心して暮らし続けられる支援システムを開発。実証期間中、ヒヤリハットアラートの有効性について、4 世帯での検証を実施。 ③区民・地域/区全体 ・システム導入による転倒、ヒートショック、生活全判に対する不安の改善 企業・団体 ・ヒヤリハットアラートの発生率、誤検知率検証 ・ヒヤリハットアラートの適切な検知タイミング、通知内容 【参考】 ・システム導入後、不安が改善された・やや改善された割合：66% ・ヒヤリハットアラート誤検知率：0% ④ヒヤリハットアラートについて、システム上、仕様通りの挙動を確認。アンケート結果をもとにアラート発出タイミング・告知方法・記述内容等の改修を行い、早期のローンチを目指す。
	①¥1,968,000 (¥4,656,000) ② ¥143,000 (¥2,011,551)
エフバイタル株式会社	**申請事業名:「子どもの強み」を AI で発見！？　品川 Style 親育ち講座** ①AI による「個性発掘」「個別最適のペアレンティング」技術、人材育成のノウハウ・ネットワークを用い、品川区が推進している「親育ち」事業を活性化し、保護者に楽しみながら医学的・発達的に正しい知見を提供し、「子どもが安心してチャレンジできる環境づくり」に取り組む。 ②スマートフォン（動画撮影）を使って子どもの個性を発見し、その子一人ひとりにあった関わり方を提示できる AI 技術を使う体験会および「親育ち」（ペアレンティング）講習会を 2 回実施。 ③区民・地域/区全体 ・「親育ち」の理解、認知度向上 企業・団体 ・技術改善個所の特定 【参考】 ・講習会参加人数：70 人（第 1 回：24 人　第 2 回：46 人） ・講習会参加者の満足度（「子どもの良さを見つけられた」） 第 1 回：74%　第 2 回：93% ④抽出した改善個所の改修およびポータルサイト等を通じた情報発信について取り組む。令和 8 年度以降も対面を主軸とした区民向け親育ちイベントを実施していく。
	①¥4,997,000 (¥8,046,380) ② ¥607,000 (¥2,907,786)
株式会社ＨＡＴＨＭ	**申請事業名:スポ超式・運動神経向上プロジェクト** **～「運動音痴」をなくす！次世代キッズスクール創設に向けた実証事業～** ①トップアスリートの専門的知見を活用した「運動体験の質の向上」が、子どもたちのウェルビーイングにどのような良い影響を与えるかを検証する。取得したデータに基づき、令和 8 年度にキッズスクールを本格開校し、地域に根差した持続可能な教育モデルを構築する。

<table>
<tr><td rowspan="2"></td><td>②8 月のキックオフイベントとそれに続くワークショップを 11 月と 2 月に開催。スポーツへの関心と運動意欲の向上を図り、参加児童の運動能力や自己肯定感の変化を測定・分析。あわせて持続可能な運営体制の検証・分析を行った。
③区民・地域/区全体
・参加児童の身体機能・自己肯定感の向上
・子どもの心身の前向きな変化を実感する保護者の声
・スポーツ・健康への関心・意欲向上
企業・団体
・持続可能なモデルの実現可能性
・潜在ニーズの抽出・分析
【参考】
・指導による身体機能スコア向上
立ち幅跳び：平均+13.0cm　反復横跳び：平均+12.7 回
・キックオフイベント「スポ超キッズフェス」参加人数：525 人
④令和 8 年度から自走可能なキッズスクールを本格稼働する。
・実績のある専門家による監修　　・トップアスリート連絡網の活用
・SNS での動画配信等による未行動層の獲得と運動習慣定着の促進</td></tr>
<tr><td>①¥2,591,000
(¥3,967,780)
②¥1,536,000
(¥2,729,773)

</td></tr>
<tr><td>一般社団法人
めぐもり
（２年目）</td><td>申請事業名：目黒駅前ウェルビーイング up プロジェクト

①これまで目黒駅前地域で活動を行う中で認識してきた、一人暮らしをするシニア世代の孤独・孤立や孤独を感じる若者世代の存在、子育て世帯の相互交流の不足、子どもたちの世代間交流の不足に加え、地域活動の担い手不足、防災・防犯への備え不足といった課題を踏まえ、地域において世代を超えた様々な形で交流できる企画を日常的に展開することで、地域の人々の間に「ゆるやかなつながり」を作る。
②モーニングパーク Sunday、自由研究ゼミ、目黒まちなかキッズハロウィン、CCC 目黒、目黒駅前カイギ、めぐもりのあそびテント、いぃ運動会、算数ゲームランド、シェアガーデン収穫祭、かまどごはんの日、本の日、街焚き火などの各種イベントを実施。助成２年目となる今年度はイベント開催時に以下のとおり取り組む。
・ボランティアスタッフを積極的に募集し、地域でのボランティアニーズを掘り起こし、活動の担い手と出会う機会を増やす
・町会や住民団体と協力関係を結びながら開催し、活動担い手と町会・団体とのマッチングにつなげる
・CSR に関心を示す企業関係者のイベント参加等により、来年度以降の支援体制強化を目指す
③区民・地域/区全体
・幸福度の向上や生活の充実　　・防災・防犯意識の向上
・地域とのつながり　　・自分らしい生き方
・子育て世帯の相互交流　　・シニア・若者の孤独・孤立対策
・子どもたちの世代間交流
企業・団体
・地域連携（近隣町会）　　・人材（プロボノ、ボランティア）
・企業連携　　・認知度向上</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2"></td><td colspan="2">【参考】
・イベント開催回数：27 回
・イベントに参加して、幸福度の向上や生活の充実につながった割合
大いにそう思う：60%　　そう思う：23%
・イベントに参加して、防災・防犯意識が向上した割合
大きく向上した：50%　　少し向上した：25%
④「ゆるやかなつながり」を形成するため、きっかけとなる活動を日常の中に溶け込ませていく。継続的に実施するため、協力団体の募集やイベントごとのスポンサー募集など、協力者や協力企業・団体を募りながら活動を継続していく。</td></tr>
<tr><td>①¥1,766,000
(¥3,553,577)
②　¥953,000
(¥1,907,625)</td><td> </td></tr>
<tr><td rowspan="2">株式会社
ラヴィプラス
（２年目）</td><td colspan="2">**申請事業名:拠点型テーマ発見コミュニティの運営**

①オンラインや公園、都度確保するスペースで活動を行ってきたが、品川区武蔵小山にオープンした拠点を通して、「遊びを通した子どもたちの自立、成長促進」「多世代との交流、共同プロジェクトの遂行による若者のキャリア支援」「親世代の交流や地域に根差した活動を通じた新たな社会接点の創出」を拡大していく。地域との繋がりをより強固にし、「場所」のコスト軽減手法の検討や、人材確保・育成へ取り組むといった、昨年度直面した課題へのアプローチにより、持続可能な事業モデルを構築する。
②子どもを軸としたＺ世代との活動を通して、子どもにとっての学校・家庭・塾以外の居場所を創出し、若者・大人世代含めた全世代のキャリアを思考できる拠点として武蔵小山にオープンした「しながわ Place」にて、週末に子どもたちが遊べるスペース「週末コドモキチ」（夏休みは「夏休みのコドモキチ」）をオープンし、そこに集まった子どもや若者たちが遊び、交流することで自ら考え、主体性と自信を育み成長するきっかけを生み出す。
③区民・地域/区全体
・子どもたちの新しい居場所への満足感・充実感
・保護者の子育てへの身体・心理的負担軽減
企業・団体
・認知拡大　　・地域との協業の加速
・運営メンバーとして参加する若者の増加
【参考】
・コドモキチオープン日数：78 日
・コドモキチ延べ参加人数：338 人
・子ども向けイベント回数：29 回
・しながわ Place 関連イベント延べ参加人数：613 人
④利用者のニーズが高く、子どもたちにとっての安心・安全な居場所づくりを中心とした活動を継続していく。持続可能な運営体制確立のため、拠点型ではない移動式の場所づくりに取り組む。</td></tr>
<tr><td>①¥3,000,000
(¥12,284,589)
②¥3,000,000
(¥10,184,232)</td><td> </td></tr>
</table>

監 査 報 告 書

ウェルビーイング・ＳＤＧｓ推進事業実行委員会
会長　　山　本　　達　也　　様

令和８（２０２６）年５月７日

ウェルビーイング・ＳＤＧｓ推進事業実行委員会
監　事　つる　伸一郎

ウェルビーイング・ＳＤＧｓ推進事業実行委員会
監　事　春川　誉夫

私たち監事は、令和７年度の委員の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

１　監査の方法及びその内容

私たち監事は、委員及び当実行委員会事務局等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、総会その他重要な会議に出席し、委員等からその職務の執行の状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、当実行委員会事務局において業務及び財産の状況を調査した。

以上の方法によって、当該年度に係る事業報告を監査した。

さらに、会計帳簿またはこれに関する資料の調査を行い、当該年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）について監査した。

２　監査結果等

（１）事業報告等の監査結果

①　事業報告は、法令及び会則に従い、当実行委員会の状況を正しく示しているものと認める。

②　委員の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは会則に違反する重大な事実は認められない。

（２）計算書類の監査結果

計算書類は、当実行委員会の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に示しているものと認める。

（３）付帯意見

① ファンド基金について、令和７年度は４事業者からの寄附を受け入れており、令和６年度と比して増加しているものの、予算額を下回っている。引き続き、ウェルビーイング・ＳＤＧｓ推進事業の周知や事業選定について、一層の工夫をもって取り組まれたい。

② 選定事業者の中には計画と実績に差異があるケースが見受けられる。地域課題・行政課題の解決につながるよう、区との連携を強化するなど、より事業効果が上がるよう取り組まれたい。

以上